

## 令和7年度 生徒アンケートの結果について

### 1 回答した生徒について

- ・ 1学年の生徒 276名
  - ・ 2学年の生徒 182名
- 合計 458名

### 2 質問内容について

グローバル教育に関するアンケート 12問を令和8年3月に実施した。質問内容については次の通りである。

- (1) グローバル教育研究推進校の教育活動の中で、特に興味・関心のあるものを2つ選ぶ。
  - ・ 英語の学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の設置
  - ・ 英語の少人数教育
  - ・ 英語プレゼンテーションコンテスト
  - ・ 韓国姉妹校との交流
  - ・ オーストラリアの高校との交流
  - ・ ニュージーランドの高校との交流
  - ・ フィリピンの高校との交流
  - ・ グローバル講演会（1学年職員による講演）
  - ・ グローバル講演会（花王の社員による講演）
  - ・ グローバル講演会（外務省職員による講演）
  - ・ 実用英語技能検定の1次試験会場
  - ・ GTECの受検
  - ・ 大学の外国人留学生との交流
  - ・ 英語ディベート交流会
- (2) グローバル教育研究推進校の教育活動をとおして、グローバル教育について考える機会が増えたか。
- (3) グローバル教育研究推進校の教育活動をとおして、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことに役立ったか。
- (4) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けたか。
- (5) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けたか。
- (6) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まったか。
- (7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができたか。

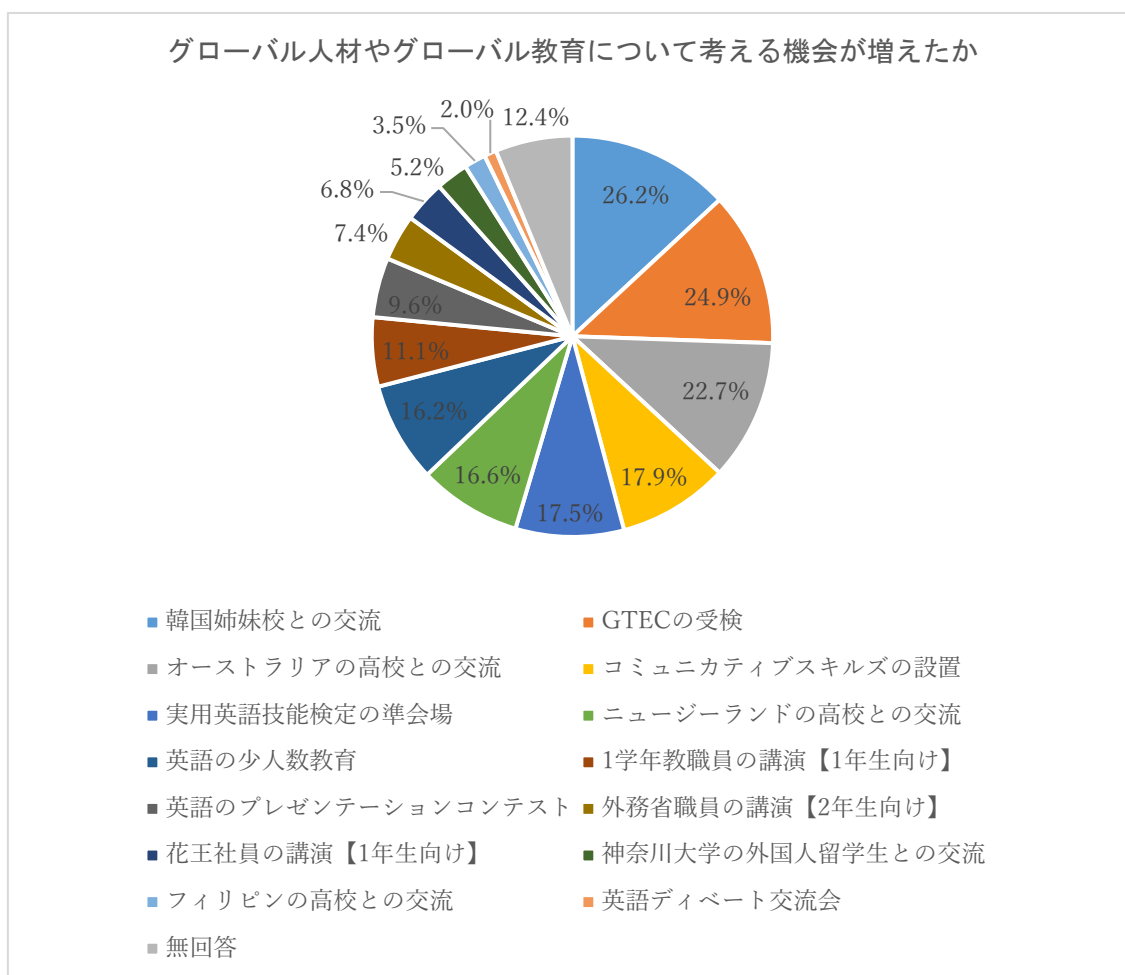
(8) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業で、印象に残る活動について答える。【任意回答】

(9) 「総合的な探究の時間」において国際理解研究をテーマに取り組んでいる。この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。

(10) 「総合的な探究の時間」の取組をとおして特に興味をもつようになった国際社会の諸問題を答える。【任意回答】

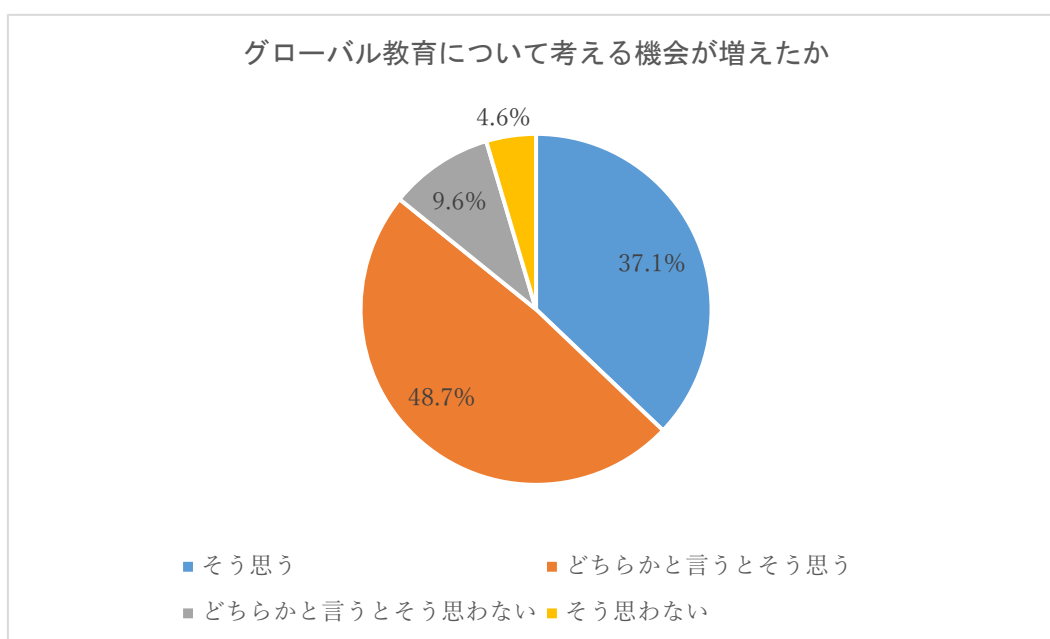
### 3 回答結果について

(1) グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるものを2つ選ぶ。

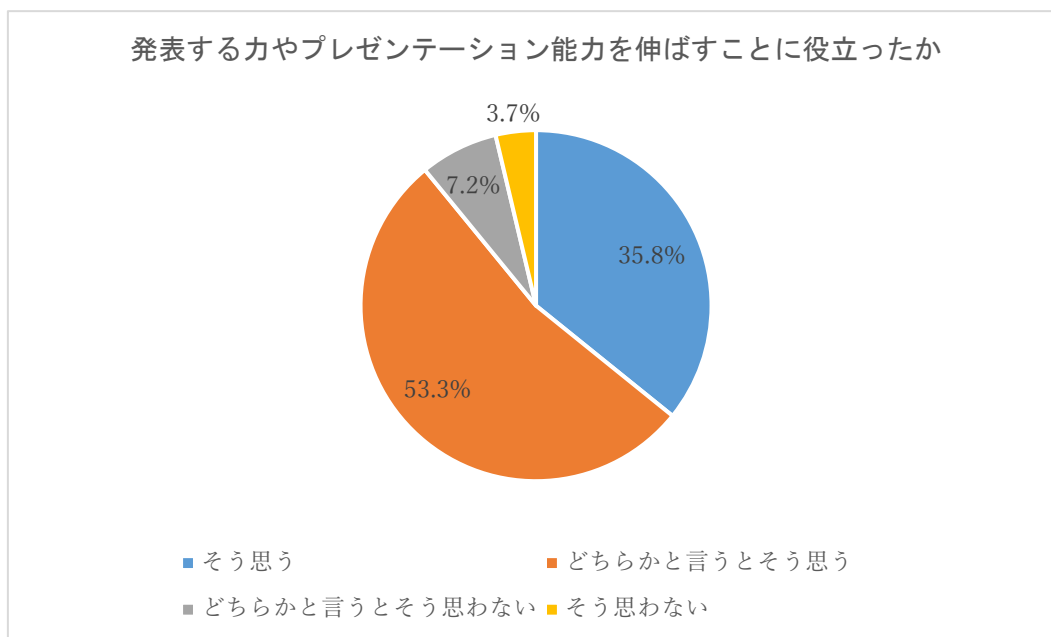


回答	数値	割合
1 韓国姉妹校との交流	120	13.1%
2 GTEC の受検	114	12.4%
3 オーストラリアの高校との交流	104	11.4%
4 コミュニカティブスキルの設置	82	9.0%
5 実用英語技能検定の準会場	80	8.7%
6 ニュージーランドの高校との交流	76	8.3%
7 英語の少人数教育	74	8.1%
8 1 学年教職員の講演【1 年生向け】	51	5.6%
9 英語のプレゼンテーションコンテスト	44	4.8%
10 外務省職員の講演【2 年生向け】	34	3.7%
11 花王社員の講演【1 年生向け】	31	3.4%
12 神奈川大学の外国人留学生との交流	24	2.6%
13 フィリピンの高校との交流	16	1.7%
14 英語ディベート交流会	9	1.0%
15 無回答	57	6.2%
回答総数	916	

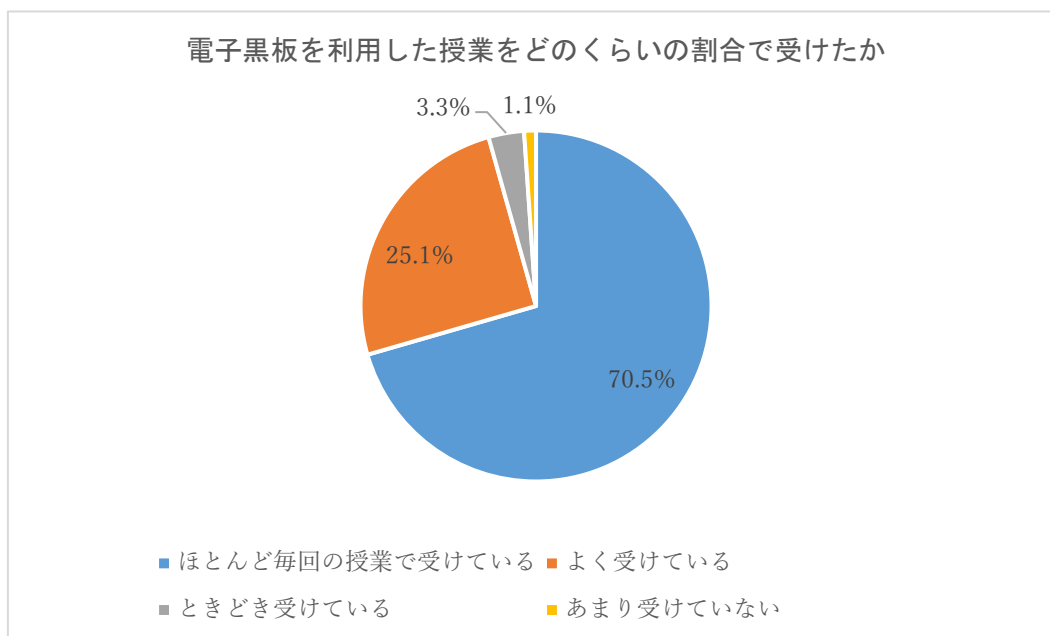
(2) グローバル教育研究推進校の教育活動をとおして、グローバル教育について考える機会が増えたか。



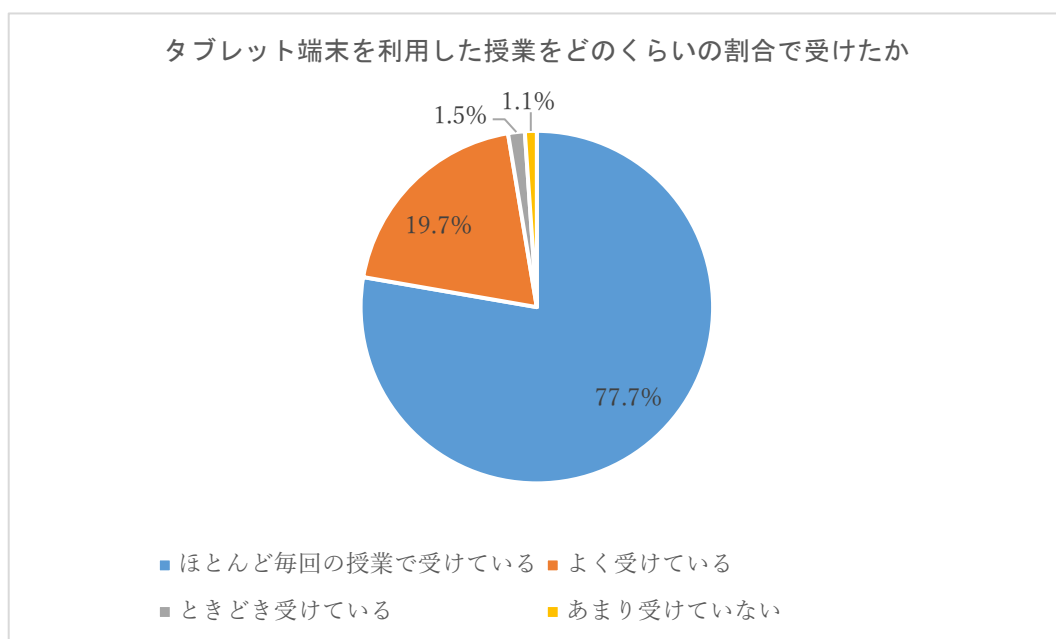
(3) グローバル教育研究推進校の教育活動をとおして、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことに役立ったか。



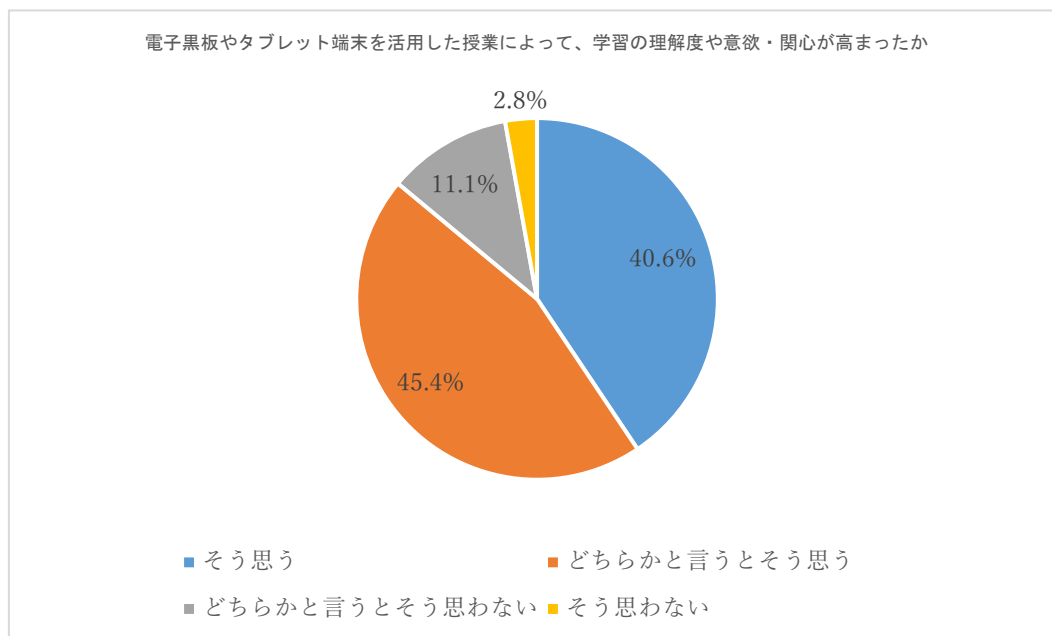
(4) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けたか。



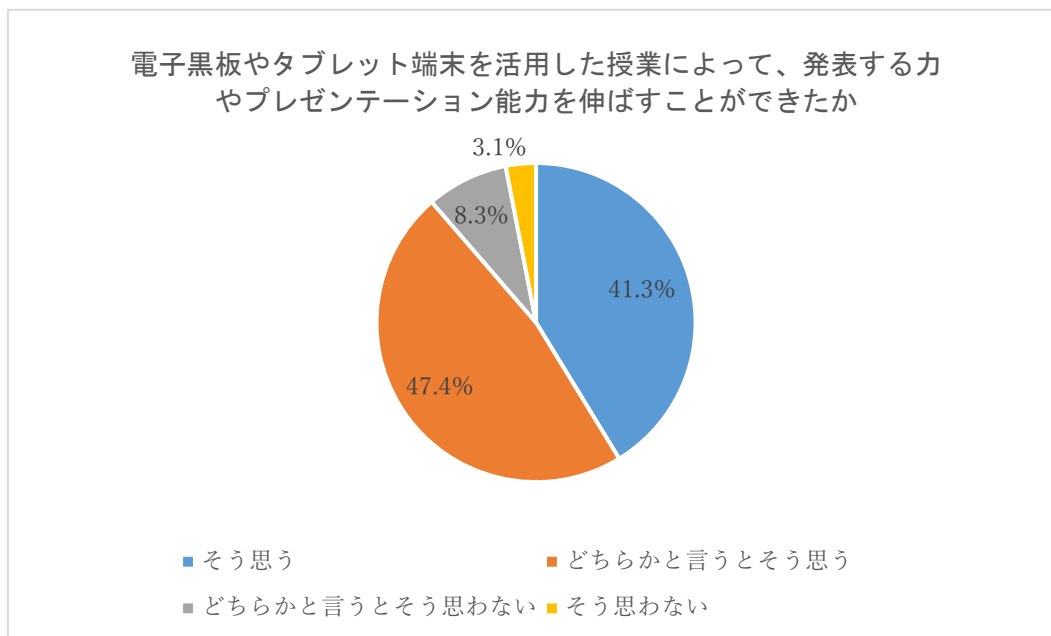
(5) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けたか。



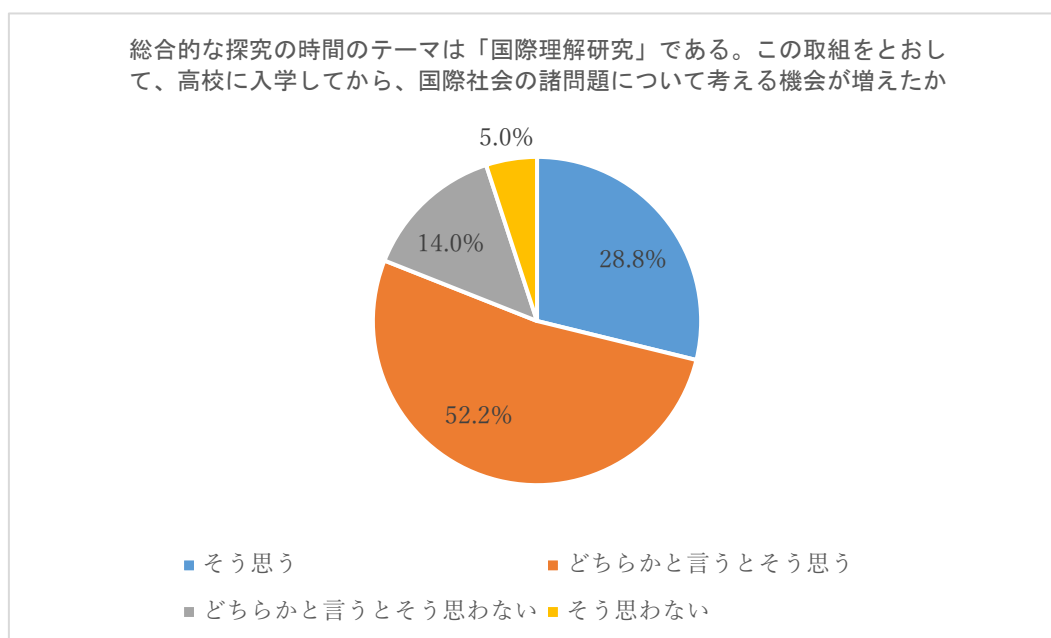
(6) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まったか。



(7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができたか。



(9) 「総合的な探究の時間」において国際理解研究をテーマに取り組んでいる。この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。



#### 4 結果の分析について

肯定的な意見と否定的な意見の回答割合を比較してみると、次の通りになる。

(令和6年度で同様の質問をおこなったものは、同年度の回答割合も掲載した)

項目	年度	肯定的 (%)	否定的 (%)
(2) グローバル教育について考える機会が増えたか。	令和6年度	86.0%	14.0%
	令和7年度	85.8%	14.2%
(3) グローバル教育研究推進校の教育活動をとおして、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことに役立ったか。	令和7年度	89.1%	10.9%
(4) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか。	令和6年度	96.6%	3.4%
	令和7年度	95.6%	4.4%
(5) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか。	令和6年度	97.4%	2.6%
	令和7年度	97.4%	2.6%
(6) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まったか。	令和6年度	84.6%	15.4%
	令和7年度	86.0%	14.0%
(7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができたか。	令和6年度	92.7%	7.3%
	令和7年度	88.6%	11.4%
(9) 「総合的な探究の時間」において「国際理解研究」をテーマに取り組んでいる。この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。	令和6年度	77.9%	22.1%
	令和7年度	81.0%	19.0%

(1) グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるもの  
【2つ選択する】

	割合
	令和7年度
韓国姉妹校との交流	26.2%
グローバル教育講演会	25.3%
GTECの受検	24.9%
オーストラリアの高校との交流	22.7%
英語の学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の設置	17.9%
実用英語技能検定の1次試験会場	17.5%
ニュージーランドの高校との交流	16.6%
英語の少人数教育	16.2%
英語プレゼンテーションコンテスト	9.6%
大学の外国人留学生との交流	5.2%
フィリピンの高校との交流	3.5%
英語ディベート交流会	2.0%

※グローバル教育講演会は、「1学年職員」「外務省職員」「花王社員」の講演に対する回答割合の合計となっている。

(8) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業で、印象に残る活動について答える。

※回答は任意

※回答総数は 177 名で、回答数が 10 名以上のものを表示する。

- ・プレゼンテーションの作成・発表など (46)
- ・プレゼンテーションコンテスト (24)
- ・授業での活用や復習に使用した (14)
- ・ロイロノート使用した意見交換や課題提出 (12)

(10) 「総合的な探究の時間」活動を通じて、特に興味を持つようになった国際社会の諸問題について答える。

※回答は任意

※回答総数は 154 名で、回答数が 4 名以上のものを表示する。

- ・戦争 (30)
- ・環境問題 (15)
- ・SDGs (13)
- ・難民問題 (9)
- ・貧困問題 (9)
- ・差別問題 (4)
- ・拉致問題 (4)

令和7年度は指定校事業の再指定を受けた初年度にあたり、少し質問項目を変更したが、多くは、前年度までの質問項目を引き継いだ。

「グローバル教育について考える機会が増えたか」については、前年度と同様に85%以上の生徒が肯定的な回答をした。この理由として、グローバル教育研究推進校としての様々な取組により、生徒がグローバル教育を意識する機会が多いからと考える。

「グローバル教育研究推進校の教育活動をとおして、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができた」は新たな設問である。この質問に対して約90%の生徒が肯定的な回答をしており、本校では授業やそのほかの活動をとおして発表する機会が多く、生徒もプレゼンテーション能力が伸びたと感じていると考える。

「電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか」と「タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか」の二つの問いは、前年度同様95%以上の生徒が授業中に電子黒板やタブレットを活用した授業を受けていると感じており、電子黒板とタブレットを使用した授業は完全に定着したと考える。来年度も同様な傾向の回答となるのか見る必要がある。

「電子黒板やタブレットを活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができた」との質問に対しては、肯定的な回答が前年度より4ポイント減になった。肯定的な回答が減少した理由については不明であるが、多くの生徒は中学校で獲得したプレゼンテーション能力を高校に入ってあまり伸びなかったと考えているかもしれない。

「総合的な探究の時間」のテーマが「国際理解教育」である。「この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。」の質問は前年度までは、肯定的な回答が年々減少していた。しかし、令和7年度は一転して3.1ポイント増になった。令和7年度は欧米や中東で多くの国際的な諸問題が発生し、国際間の外交上の摩擦も増えたこともあり、総合的な探究の時間で学ぶことだけでなく、ニュースを通じて生徒の興味を持つことができる国際的な諸問題が多かったのではないかと考える。

次に、「グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるもの」「海外の姉妹校等交流」を回答した生徒の割合が令和6年度まで50%以上となっていた。令和7年度は69.0%となり、引き続き関心が高いことが伺える。

「グローバル教育講演会」も3つの講演を足した割合で見ると25%を超えており、「GTECの受検」と同じく、生徒の関心が高く、引き続き講演会の実施と内容の精査を行っていきたい。

最後に総合的な探究の時間を通じて、特に興味を持つようになった国際社会の諸問題で、令和6年度は12名が挙げた「戦争」が令和7年度は30名の生徒が挙げた。生徒の感覚からも令和7年度は戦争や武力紛争が多いと感じたのかもしれない。